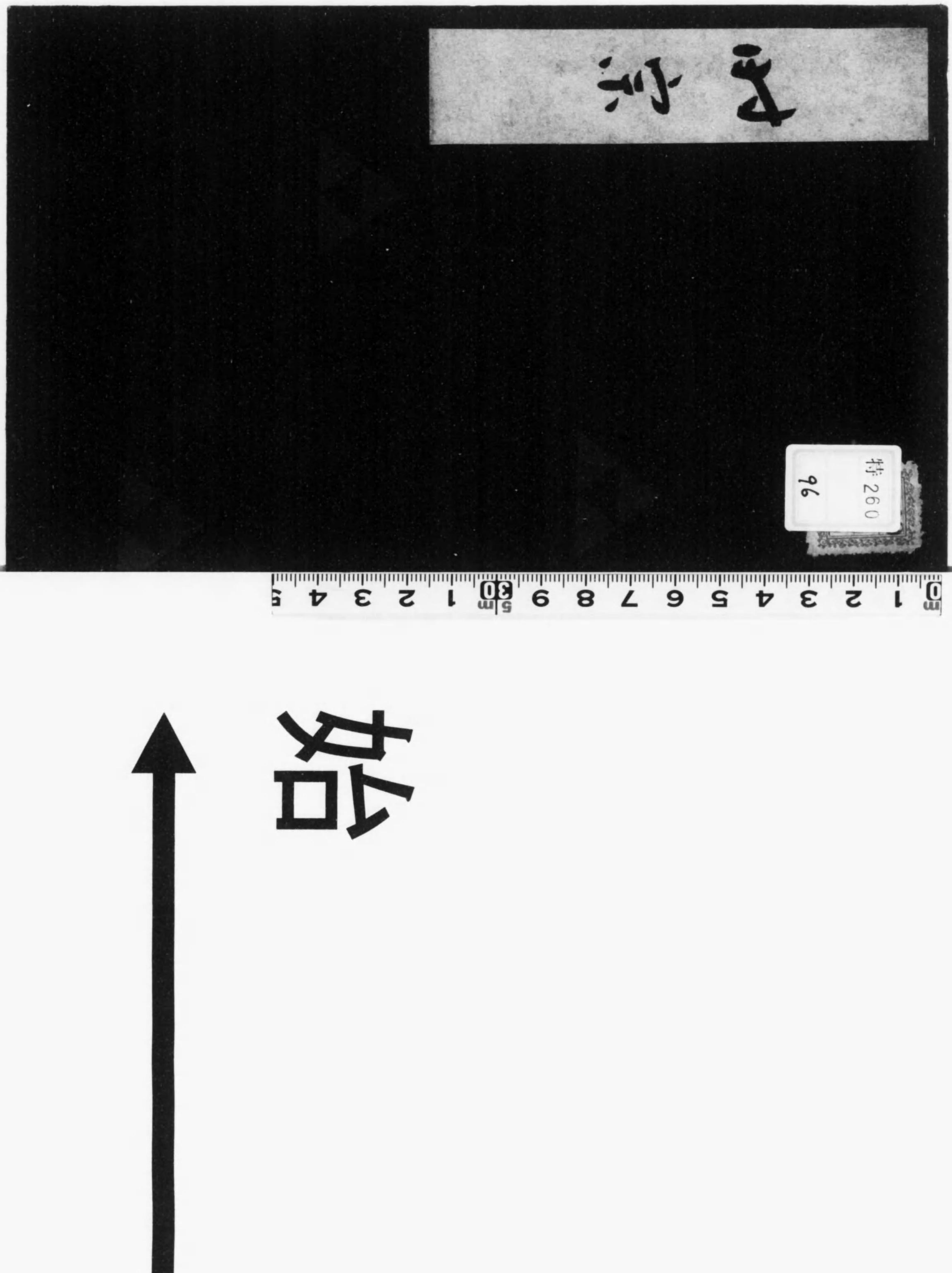
文化
特 260
96
部

特 260
96

序

この曲は日本放送協會の依頼を受けて新作、昭和十五年十一月十一日、紀元二千六百年祝典擧行の當日放送された作品である。當日の演奏者は、仕手櫻間金太郎、脇寶生新、笛一噌鍈二、小鼓幸悟朗、大鼓川崎利吉、太鼓金春惣右衛門、間野村萬藏、の諸氏であつた。更に昭和十六年十二月七日、右と同一の役者にて、富士見町細川家能舞台に於て演能されることになつた。又昭和十七年二月八日鎌倉圓覺寺本堂時宗靈前に於て同一の役者に於て演能された。唯太鼓は柿本豐次氏に變つた。又昭和十七年三月二十八日、赤阪舞臺同好會に於て同一の役者に於て演能された。唯笛は藤田大五郎、太鼓は金春惣一氏に變つた。

再版に當りて終り二頁目を書加へた。

昭和十七年四月十六日

ホトトギス發行所にて

高濱虛子

裝束附

前仕手（童子）　面童子。襟赤。黒頭。白鉢巻。着付箔。水衣。腰帯。中啓。掃木。

後仕手（時宗の霊）　面天神又ハ平太。襟紺。黒垂。梨子打烏帽子。白鉢巻。鍬形。着付厚板。狩衣。半切。中啓。

ワキ（旅僧）　慰斗目着流。角帽子。水衣。珠數。中啓。

ワキツレ（従僧二人）　同

時宗

ワキ三人　次第　和上　相手合

国の光はきぞつけぬ。くに。末の世かけて尋わん。ワキ　見しい諸國一見の傍ふて。いかの度思ひ立ち法隆寺参詣と志。作。急ぎいそぎ行る。これハ早法隆ちと急ぎてい。心静かに参詣せぞやと

思ひ。たるべし。和漢三才の霊場は
未だ見ずと。国きりの勝る有様の。七
堂伽藍布置正しく。中門を入て金
堂あり。五重の塔聳えて。周
囲の廊をめぐらして。西の講
堂をおく。東の鐘楼 西の経蔵

飛鳥の御代に建立をこゝにとゞむる
心地して。感涙そゞろに堪がたく。
僧ひとりに伴ひ法をきゝ。上和合西方の弥
陀極楽に国まで〳〵も。遠く行か
ぜも目の当り七宝池。功徳得水。金砂
瑠璃の真砂路を。歩みてゞ行くちり

ぢの。五濁悪世小何ぞや。こゝハ浄土の都なり。強上こゝ經の。法乃御聲を聞くなつけ。鐘の響も物古りて。心静かなる。あるゆかり。いのるそれなのゝ人を尋ねぐきこゝのゝ。御身ハこゝあるりの人なて。ゆ。またの。さんびこれい

こゝ寺の庭掃きのものこゝてゝ。このこの金堂の御佛ハ。我國に於ける最も古き佛とゝ。ゆり及びて。詳しく御物語り申。奈も用明天皇の。御願を果させ給へと。聖徳太子御心を尽ハせ給ひ。推古天皇十五年に創建せられる

御寺をてゝ。さしれゞ金堂を安置
奉る。藥師如來の像ハ。勅をより。太子
が母御師をもて作らしめ給しものの
をてゝ。又次ハ脇侍まれさき給ふ釋迦
如來の像ハ。昌ハ推古天皇ニ十一年。
太子妃橘姫。并ニ御子山背の大兄。

太子御菩提の爲ニ作り給へる
ものをてゝ。又音ふ名高き壁畫ハ。四佛
をを描きたるもの。四佛土をハ河海沱變
也。藥師釋迦四つの淨土をてゝよくく
御拝みゆ。和僧ハ餘りの有難さに。慈
光の影をつくづくと。四佛の淨土をを

拜。我一期空しく過ぎて。遂にこ
途に沈まん身の。思ひもよらぬ世界の
舟の。たすけを得しる心地かな。げま
らく拝み給ひけり。さてこの方へ帰
出あれば。同ト 俳ひ行くや一節の。直ぐな
る道は迷ひもなし。中宿にも泊して

あゝ宵闇の景色やこれぞ東院と
申て。天平十一年行信僧都が。聖徳
太子の斑鳩の宮跡を建てたまひしを
伽藍なりて。当時ハ八角の圓堂乃。
美しく雪を穿え。五彩の光屋を元て
り。これぞ如何なることやらんこれこそ

夢殿の。本尊ハ觀世音菩薩。太子と
等身の。佛と。いともあへなぐ不思議
やな。夢殿の夢うつた。空
ゑ。顔佛の樂園ゑ。異香四方
ゑ。薫づつ。強テ不合日出づる國の太子。書を
日没する國の天子に致す。和上義なきや。

それ太子が。隋の煬帝ゑ送りたまひ
し書あり。上それ市言葉ゑ。かゝれ。
合その外太子ハ。十七條の法を定め國を
安んじ民を教へ。佛法流布の世と
なつて。渇仰大恵の。隋乃煬帝ゑ。
かゝまくも我國乃。威信を揚ぎめ。市

國書。大和の國櫃原。屬つ嶽根ゑ宮柱。太しくぞ建てなもし。より國威ハ天雲のいゆきはばり富士の峯の。高きゑありて有ゑ弱や。我もあり世ハ。法の灯も星月夜。鐘倉山ゑ来だるべしと。いふ聲の國えつ。かき消ちやう

ゑ失せゑけり〳〵〳〵。雛賣らう〳〵。雛賣らうず。雛賣らう〳〵。雛賣らうず。これハ法隆ち夢殿の四廊ゑ雛賣る者ゑてハ。聖德太子の化かれます。ゑ。如月の今日の日ゑ。雛市とゑて雛を賣りハ。近在ハ申する及ぶず。遠國よりも人ゑ群集。大和の國ハ人ハ。一日暇を休ミ。御寺ゑ参詣。雛を買ゑ手ゑ。如〳〵張やうゑことかな。雛賣らう〳〵。雛賣らうず。賣ることかな〳〵。ちと踊り拍子ゑて。善く祝ふん雛を賣らうとゑ存ぜう。しやあ。御手ゑ筋をとゑ。内裏雛ゑてハず。縫ひぐるみゑ作りゑる。婢子雛ゑてハぞ。御狩つ

いとそねーに拡つんと張りしるい。寛永雛まてはゞ
少しそり方まあおもして。顔丸くまゝまのすい元禄雛
まて仮ぞ。こゝまゝあるお福雛。御背が低うおもて
て。業平雛まゝ寄りゝ添まて。おまと、又源氏雛。たち
し他名の業のお花雛。情い高き紙雛。えまゝハ
長き糸雛。なゝしく雛壽る人まゝ。尋ね中度まゝ
のい 狂言 何事まて候ぞ 写 思しもよらぬ事まてゆへ
ども。此方の庭掃きの童子まゝ付き。此方ちまゝ於
てい語て此方せゆへ 狂言 此方ちハ。庭掃きの雛とゝ
あれ。童子ハ更まゝあくい。夫まつき思ひ出しまゝ事
のい。我國まゝ於て。西雛起る度毎まゝ。相模の太郎時
宗の幽霊。庭掃きの童子となりて現れ。聖徳

太子の御徳を頌し。上下ねをつまゝ。国雅まゝ起く
べき節を。説きいゝと吟及びい。又昔ゝに雛壽る者。
太子雛太郎雛と申すこつの雛を壽りい由承り
及びてい。先づ太子雛と申すハ。聖徳太子の童形
まゝあもします。此編姿をかゝどりなる雛まて此度あ
りぎまゝい。又太郎雛と申もハ。お模の太郎時宗の。庭
掃きの童子の姿なまゝを。作りまゝる雛とゝ申伝へく
い。今ハ共まゝ見まゝることハあくいゝども。品さまゝることあり〳〵と
承り及びてい 写 怒まゝ此相語ひもれ哉。尋ね中も余の
変まゝあゝまゝ。さい前此事まゝ糸詣申い変まゝ。童子一人
庭掃きの旅まゝて来〳〵れい強まゝ。即ち言葉をかゝ
てゆへば。此佛の御事怒まゝ語り。其後此変殿まゝ参き。

其方も家(ケカ)言るき姿を顕(ケン)じ。聖徳太子の作るを語り。
秋も方り〜世ハ。法の灯(トモシ)も星月夜。猪倉山を来て
見よと云しもあくぶ。そ俗姿を見失ふてけよ（狂言）られ
い奇特もあることを承りいもれうな。某推量仕るよ。御
傳徳言くまし〜侍すまよりも。時宗の幽霊現れけと存け。
まことは奇特なる事するてけ（ワキ）近頃不思議なる事な
てけ猪に。童子の言葉ふまクせ。猪倉山を来り。童ねて
奇特を見ようぞるるてけ（狂言）童ねて此用もあるぞ。何ま
るてもありいべ〜（ワキ）頼ミけ申す（狂言）心得申けい。雛
壳らう〜〜。雛壳らうず。雛壳らう。〜〜。雛壳らう
雛壳らうぞ。雛壳らう。〜〜。雛壳らう
ず

（ワキ）庭掃きの童子と見えるぞの。（和）掃てハ幽
雲なりけるよ。（待謡）ありし言葉を。（二ヵ切）従ひて。
〜〜。鐘倉山を来て見れば。峯の松
風物凄く。燈の影幽かすて。（二ヵ切ヤ）幽鬼人な
ほる思ひ。（ヤ）庭掃を近く香を焚き。（ト）
夢乃如りを待たるよ〜〜。

強テ上一手不合

國を守りの神風や。世界の波音。今も高く　不思議やおそげしき氣色眉宇にあらはれ。弱冠なりしこの。棟梁とこそ尺奉るべけれ。如何なる人ぞ。まさぞ　強テ　我が北條氏代の執權。相模の太郎時宗なり　サシ　如何でも我日夜。斑鳩の

の皇子の。隋に煬帝を示。給ひし國書の旨を。深く心に留めて。ところを。時こそ來れ文永の年。元の忽必烈が無禮の國書。上　上　大蒙古國皇帝。書をもつて本國王に。奉ずとあり　上　彼の暴慢。居丈を我国に強ゆる。斷じて返書無用

なるべき旨を奏して。壮世忍以下五人の使を龍の口に斬り。大小名は帰命し蒙古の来襲を備へむ。即ち元高麗の軍兵四萬。兵船九百余艘を率ひて対馬に向ふ。（シテ語）其時守護代宗資（シュゴ）卿国ハ。奮戦すれども力ひ弱く。一族と共に

戦ふ術なし。又壹岐の守護代平の景隆（シュゴ）も。力戦して死す。（同）賊軍ハ猛き勢にて筑前博多に迫る。此国難に勇む者。引きも切らざりしを中に。（シテ）肥後の住人井芹秀重（ヒデシゲ）八十五歳。其の子永秀（ナガヒデ）六十五。孫経秀（ツネヒデ）三十八。親子共弓箭兵

杖を繋ぐ御下ちを待つ。時戸のもの善く戦ふと雖も。若俄(イステル)に同上合不思議の神風吹き起りて、さしも兵船列をさ乱れ。溺れ死するもの数知らず。逐ひ寄せて来る敵の大軍ハ。雲霞の如く寄せ来る。前よりも増して、ホコ打出スもあくまでこそ。其時神風又吹き起り。黒雲大雨(コクウン)雷火乱れ飛び。八大龍王(ハチダイ)を海を分けて。海と俄うる物凄く。怒濤ハ山と崩れ(ホウル)ち。舞る兵船共の菓のごく。浮び流れ覆没せり(必ミ之働シテ)あちこち(打上打返)それ世祖を思ひけく。

同上

あれ世相を退けて。元の軍兵対つべしと。心は勢こ時宗が。忠勇の志神も納受あり給るの。志りとハいへども。我一人の心を非ぞ。ナポレオン上下ありあるべ。古人うの執を一つの為に。国の滅をきずつきぬ。末の世まで

我国ハ。よろづの国よりすぐれ

なる国

時宗　㊟定價金六十錢

昭和十六年十一月五日初版發行
昭和十七年八月十日改訂再版（一、〇〇〇部）

編著者宗家　金春光太郎
（作）高濱虛子
（曲）櫻間金太郎

東京市京橋區銀座西六丁目三番地
株式會社わんや書店代表者
發行者　江島伊兵衛

東京市四谷區傳馬町二丁目十九番地
株式會社江川堂代表者
印刷者　大澤音吉

發行所　株式會社　わんや書店
東京市京橋區銀座西六丁目
電話銀座六三八・六三九番
振替東京四、一六三番
會員番號一四四五〇一番

支店　東京市新宿驛前二幸裏通
電話四谷二五五六番

配給元　東京市神田區淡路町二丁目九番地
日本出版配給株式會社

（日本標準規格A列5號）

（出文協承認
ア90190號）

内務省納本

420
501

新作謠曲

青丹吉（あをによし）

高濱虛子 作
金春宗家閲
櫻間金太郎 曲

東京 わんや書店 發行
定價五十錢（荷造送料六錢）

淡